

統一地方選挙、国会議員補選が終わった。

候補者の主張は、人口問題にからむ地方の衰退と振興策、少子高齢化、教育・子育て支援に集中した。防災や災害対策にほぼ触れられずじまいだった。

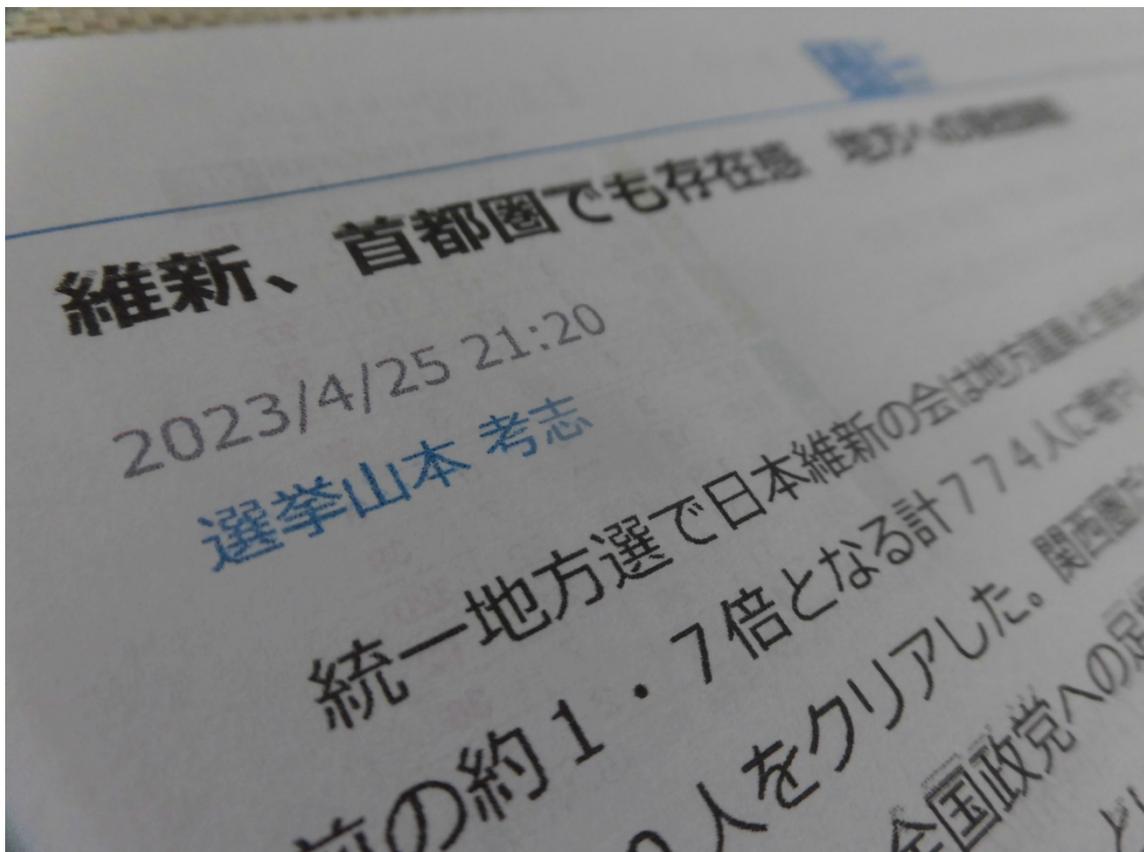
選挙が終わって、話題は“維新の躍進、とやりに振り回されている。維新の十八番は、教育無償化と身を切る改革である。大阪の都構想がまたぞろ復活しそうだともいう。

都構想に反対するひとつの理由として、南海トラフ対策など防災に触れようとしなかった維新の姿勢があげられた。

選挙のたびに不思議に思うのだが、よく争点にあがる経済対策や教育などは、社会基盤がなりたってこそそのテーマであり、そのためには防災対策の必要性を主張するべきだろう。

安全保障も議題にはあがるが、必ず起きるのは自然災害なのである。

ましてや、今年は関東大震災から100年なのである。



選挙のたびに話題となる“空疎な、維新旋風

100年たっても、当時、寺田寅彦師が論評した、「日本のような特殊な天然の敵を四面に控えた国では、陸軍海軍のほかに科学的国防の常備軍を設け、日常の研究と訓練によって非常時に備えるのが当然ではないかと思われる」ことには思いもよらないのである。そうした危機感の希薄な国民の意識に“支えられ、莫大な選挙費用を雲散霧消させ、今回の選挙でも全国で多くの議員が誕生した。

これ以上の、「災害」はないか考えるが、どうだろうか。
低調な投票率が、それに対するアンチテーゼならよいのだが…。

(令和5年4月)